

STEM教育って、聞いたことがありますか？

今年度、総合絵本では「STEM教育」に注目し、幅広くSTEMに結びつく遊びを紹介していきます。誌面には、3誌それぞれのSTEMマークが用意されています。



執筆/藤森平司 (新宿せいが子ども園園長・乳幼児STEM保育研究会代表理事)
構成/清水洋美

Q STEM教育って、
なんでしょう。

A 自分で学び、
自分で理解していく子どもを
育てる教育です。

Science (科学)
Technology (技術)
Engineering (工学)
Mathematics (数学)
→ **STEM** です!

現在、私たちが直面するさまざまな課題（例えば感染症の流行・自然災害・地球温暖化など）を乗り越えていく力が求められています。その力を育てるための教育がSTEMなのです。STEMとは科学・技術・工学・数学の英語の頭文字をとったものです。この分野の教育に力をいれていこうという潮流が世界で生まれています。

STEM教育成功のカギは、乳幼児からの導入にあります。吸収力の高い乳幼児からSTEMにふられるようサポートしていく必要があるのです。保育の中では、子どもたちの「なぜなの?」「こうしたら、どうなるの?」という疑問や探求心を、協同的な学びやプロジェクトにつなげていくことが重要になってきます。それは、大人が思う答えに導くことでも、思いどおりに成功させることでもありません。子どもの発想や、試行錯誤の取り組みを大切にすることが肝心なのです。



4月号は『かがみ』で遊ぼう！ 鏡のおもしろさ・不思議さ

鏡は子どもたちにとって身近な素材です。人間は鏡に映った自分の姿を早い時期から認識するといわれていますが、そんな鏡は、小さな子ども興味をもつ「不思議」そのものです。

英語の“science”の語源は、「知る」というラテン語です。鏡で遊びながら驚きや不思議さを感じることは、まさに「知る=science」の第一歩です。鏡を手にとり、いろいろ試せる環境を用意するのも保育者の役割です。



☒ もっと楽しむ・絵本プラス

鏡の不思議には バリエーションがいっぱい

鏡を使えば、ふだんと違った視点からものを見ることができます。いつもは上から眺めるカブトムシも、鏡の上に置けば、下から見ることもできます。ほかにも友だちの鏡と合わせて使うことで、ものの違った姿を見ることができます。光を反射させて、壁に映すこともできます。また、身のまわりには鏡以外にも、ものを映しだすものがあります。いろいろ探して、どのように映るのかを体験してみましょう。子どもたちの「やってみよう」が、創造する力になっていくのです。



☒ ここがポイント・保育プラス

特別な何かを 用意する必要は、ありません

科学の芽は日常の暮らしのあちこちに見つけられます。それらの事象を不思議に思い、興味や好奇心をもつことがSTEMの第一歩です。「なぜ?」「どうして?」と、子どもなりに探求することが、知識や法則、事象への理解、課題に対応する力の獲得につながります。

ふだんから子どもたちの好奇心を敏感にとらえ、探求心を後押しすることが大切です。幼児期におけるこのような経験は、その後の学びの基盤となります。



月刊絵本で育つ「10の姿」 思考力の芽生え・協同性

鏡の不思議で学んだ子どもたちは、夜になると、部屋の窓が鏡のように部屋の中を映し出すことや、建物の窓に雲が映りこんでいることに気づくようになるかもしれません。

たくさん遊び、いろいろ試すことで、興味が深くなり、新たな発見を楽しむようになります。また、絵本を使って友だちと一緒に遊ぶことは、自分とは違う遊び方や感じ方にふれるチャンスです。お互いまねしたり、協力し合ったりして、新たな遊びを生み出すことにもつながるといいですね。